

## 6. 植物園内におけるオサムシ科の行動生態調査

著者	佐野 宏昭
雑誌名	金沢大学理学部附属植物園年報
巻	17
ページ	43-43
発行年	1994-03-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/47803">http://hdl.handle.net/2297/47803</a>

唇脚綱	8	結合綱	1	合計	1120
倍脚綱	7	昆虫綱	1022		

第2表 昆虫綱

トビムシ目	4	カマキリ目	1	ネジレバネ目	1
シミ目	1	バッタ目	28	ハチ目	199
カゲロウ目	5	ナナフシ目	1	ハエ目	67
トンボ目	12	アミメカゲロウ目	13	トビケラ目	3
カワゲラ目	1	カメムシ目	100	チョウ目	304
ゴキブリ目	3	コウチュウ目	279	合計	1022

(大串龍一 金沢大学理学部生物学科)

## 6. 植物園におけるオサムシ科の行動生息調査

植物園内にピットホールトラップを設置してオサムシ科を採集し、その種類相、個体数、行動範囲および生活史についての調査をした。トラップは10m×16mに2mおきに54個、その周辺に21個の計75トラップを一度に設置し、2日後に回収した。採集したオサムシは種名を記録し、また大型のものにはマーキングをして最終した場所に放した。1993年5月から11月までに44回の調査をおこない、のべ3145個体を採集した。現在までにオサムシ亜科2属2種、マルクビゴミムシ亜科1属1種、ナガゴミムシ亜科3属6種、マルガタゴミムシ亜科1属1種、ゴモクムシ亜科3属5種、アオゴミムシ亜科2属3種、スジガネゴミムシ亜科1属2種、計7亜科13属20種のオサムシを確認した。

(佐野宏昭 金沢大学理学部生態学研究室)

## 7. アザミ属(*Cirsium*)をめぐる植物-昆虫相互関係の生態学

以下の2項目を中心にして、アザミ属植物とその植食性昆虫類の相互作用系の動態を、共進化、あるいは植食者による寄主植物への追従進化の視点から検討している。

### 1. ヤマトアザミテントウとアザミ属食草の地理的変異

オオニジュウヤホシテントウ群 *E. vigintioctomaculata*-complex に属するヤマトアザミテントウ *Epilachna niponica* は、アザミ属を食草とし、本州日本海側に分布する。本種は、他の *Ev*-complex のメンバーと同様に、地域集団間のみならず地域集団内にも形態と食性に変異が大きいので、種分化と生活史特性の進化の研究対象として注目を集めている。いっぽうアザミ属は、日本には70-80種が分布するが、日本海側で複雑に分化し、多数の近縁種が同所的に分布し種内変異が大きく自然交雑もするので、その分類は容易ではない。アザミは形態だけではなく、ヤマトアザミテントウの食草としての受容性に種内変異が大きい。本研究では、北陸-中部地方のヤマトアザミテントウとアザミの地理変異を、形態のみならずアロザイム、核型分析も含めて解析し、分化程度の定量化し、さらにヤマトアザミテントウの各種アザミに対する受容性と生存-繁殖パフォーマンスの比較を進めている。